



コロナ禍で地域医療を担う医療機関の活動をサポートするために支援金寄贈

三重県 株式会社キング観光
「コロナ禍における
地域医療現場への支援」事業



株式会社キング観光
代表取締役社長
権田 清さん

新型コロナウイルスの治療にあたる地域の医療機関に1,000万円を寄贈

1966年に創立された株式会社「キング観光」は三重県桑名市に本社を置き、現在、三重県内（12店）、愛知県内（9店）、和歌山県内（1店）、滋賀県内（2店）に計24ホールを展開している。

同社では電力監視装置による日々の節電、介助犬育成を支援するための募金箱設置、NPO法人「エコキャップ推進協会」への活動協力などの社会貢献活動に取り組んでいるが、2021年、コロナ禍で厳しい環境下にある医療現場の支援を目的として、本社が所在する桑名市の地域医療の要となっている桑名市総合医療センターに対して、1,000万円の寄贈を行った。

この寄付事業は、2019年12月に死去した故権田盛秀前会長の「市総合医療センターの医療に寄与する」という遺志を引き継ぐもので、新型コロナウイルス感染症の治療に懸命にあたっている同センターを支援するため、3年連続で実施された。

寄贈にあたっては、同社社長が同センター理事長に申し出を行い、同センター側が用途などについて検討したうえで受領を決定した。

寄贈式が行われた2021年6月7日には、同社社長が同センターの竹田寛理事長を訪問し、理事長から感謝状が贈呈された。寄付金について理事長は、「基金を設立し、いただいた寄付は新型コロナウイルスの終息後、院内コンサートを開催するための費用や職員への特別報奨など、療養中の皆様やそのご家族の方々に安らぎを感じていただくために活用します」と述べるなど、新型コロナウイルス感染症の状況下で医療活動に従事する職員のために活用する方針を明らかにしている。

寄贈の様子は中日新聞や地元ローカル紙が写真入りの記事を掲載したほか、ネット記事としても配信され、社会貢献に対する遊技業界の意識の高さの周知や業界の社会的地位向上などに効果があったと関係者はとらえている。



桑名市総合医療センターへの寄付金贈呈式



寄付活動に対し、桑名市総合医療センターから感謝状を贈られた



地域社会や自然への感謝をこめて全社員が参加して様々な活動を実施

宮崎県 株式会社西の丸
「地域の美化(120カ所に及ぶ花壇に
四季の花植え・水遣り・除草等の手入れ)と
清掃活動」事業



株式会社西の丸
代表取締役社長
西谷 淳さん

花に満たされた安心安全な地域をつくるために社員一丸で取り組む

1976年に設立された株式会社「西の丸」は宮崎県東臼杵郡門川町に本社を置き、現在、同県延岡市、日向市、門川町、川南町に7店のホールを展開している。同社ではお客様をはじめ、地域社会と自然に対する謝恩を当然と解し、全社員が「させていただく」ことを基本理念として、社員と家族でボランティア団体「一善の会」を結成し、年間を通じて地域の美化や清掃活動に取り組んでいる。

この活動は1991年から続けられているもので、延岡市、日向市、門川町、都農町、川南町、高鍋町の市街区公園、駅、漁港、公民館・図書館などの公共施設、主要道路および沿線道路などで草刈り、ゴミ拾い、除草などの清掃を行い、120カ所の花壇に四季折々の花を植え、その手入れを行うものである。この活動のために4名の専従社員を雇用し、全社員とその家族が毎月2~4回実施しているが、年間ではのべ200回、のべ2,000名が参加している。台風の後などで広大な海浜や長い沿道花壇の清掃を行う場

合は、100名以上動員することもあるという。

また、地域の子どもの安全安心を見守り、健やかな成長を願う活動として、「門川町子ども見守りネットワーク」に登録し、社会福祉協議会と連携して自主防犯パトロールを行っている（月4回、のべ出勤回数50回、参加人数100名）ほか、新入学児童の防犯・交通事故防止のため、延岡市・日向市・門川町・美郷町・諸塚村・椎葉村の新入学児童への反射材付きランドセルカバーの贈呈（1999年から2021年までの累計53,127枚）、日向市にある児童養護施設に入所する子どもたち（幼児、小学生、中学生、高校生）へ年2回の支援金と本人の写真入り年賀状の贈呈を行っている。

上記の他にも同社では、新台入れ替えチラシの裏面などを利用した火災予防運動、交通安全運動、ウソ電話詐欺防止などの啓発チラシの作成（年間100回）、日向市の塩見川河川敷や伊勢ヶ浜交差点公共花壇でのアダプト制度（公共施設里親制度）に従った美化活動などに取り組んでいる。



社員と家族でボランティア団体を結成し、地域の美化活動に取り組む



120カ所に及ぶ花壇に花植えや水遣り、除草等を実施